

もう1年、顔の見える東北支援を

グループ〈わ〉は、2月7日の理事会で東北支援活動をさらに1年間継続することを決定しました。西田圭一理事長は「昨年は、2回にわたってチームを派遣。」顔の見える交流“をやってきた。今後もグループ〈わ〉の総力をあげて息の長い支援を続けたい」と決意を述べました。

オールKSCで

〈わ〉の東北支援活動は、大震災直後の3月20日からプロジェクトチームで救援募金を始め、約60万円を神戸市に寄託。その後は農機具類・農薬・種子などを70万円で購入し、〈わ〉の提携先である宮城県大崎市のNPO田んぼに寄贈しました。

7月には第1次支援チーム17人を南三陸・大崎市・登米市に派遣。田んぼのガレキ除去作業をしたほか、児童センターなど5か所を訪問して交流会を実施してきました。10月には第2次支援チーム15人を派遣。女川町・石巻市・名取市・東松島市の仮設住宅・幼稚園・小学校・児童センターなど11か所で慰問活動をしてきました。12月には東浜小と女川第四小の子供たちを神戸に招きルミナリエなどを楽しんでもらいました。お正月には7月と10月に訪問した15施設にプレゼントを届けました。

こうした支援活動は、〈わ〉の東北支援プロジェクトチームで具体策を練り、会員や現役に協力を呼びかけ“オールKSC”という形でやっています。募金や救援物資は会員・区会・サークルなど多くの方々の賛同で成果があがっています。派遣に際しては昔遊び研究会・マジック同好会などの全面的な協力が得られています。派遣メンバーにも現役の皆さんが率先して加わってくれています。おかげでこの1年間、ささやかながら“他のために”の校是を実践することができ、被災地の子供たちや仮設にお住いの皆さんに喜んでもらうことができました。

●サポート募金のお願い

東北被災地へ支援を続けるための活動募金にご協力ください。1口1000円。個人でも、区会、サークル単位でも構いません。わ本部へご持参いただくか、郵便振替で送金してください。ご賛同者の氏名などは、「ぎゃらりー わ」に順次掲載します。会員の皆さまには、お願いの手紙と振替用紙を58号に同封しています。



一方、1・2次チームが訪れた被災地の幼稚園・児童センター・小学校などからは「グループ〈わ〉のみなさん。遊んでくれて、おみやげもくれて、ありがとう」のメッセージカードや折り紙・竹細工などが続々と届き、〈わ〉と子供たちとの絆を実感しています。（=写真は10月19日、名取が丘保育所で）

新年度から東北支援プロジェクトは、西田圭一（理事長・生11）芦田義和（リーダー・生15）南形徹（広報・生14）海野龍英（幹事・食16）大澤貞男（生13）波多野武郎（食16）古後健一（福18）の計7委員が中心となり進めることになりました。

活動助成金 2件申請

今後の活動については、3月6日の理事会で「年末に申請した助成金は選外になり、4月に支援チームを派遣できなくなった。新たに2件の助成金を申請しており、パスすれば7月と10月に第3次・第4次チームを派遣したい」との報告があり、メンバー・内容面とも1・2次とは違った形で実施しようとプロジェクトチームで具体策を急ぐことになりました。

現役と合同で募金活動

新入生を対象にした支援活動募金などは、現役のボランティアセンターと共同で実施することになり、入学式から4日間（4月6・9・10・11日）ロビーに募金箱を置いて協力を呼びかけました。

（広報・南形徹）